はじめに

東日本大震災津波の発生から 12 年が経過しましたが、近年の海洋環境の変化による秋サケ、サンマ等主要魚種の不漁、磯焼けによるアワビ資源の減少、貝毒によるホタテガイの出荷減等、岩手県の水産業は厳しい状況が続いています。

令和４年度における主要魚介類の水揚状況は、秋サケが 446 トンとなり、東日本大震災前５ヶ年平均の２%、サンマが３千５百トンで震災前３ヶ年平均の７%、アワビが 111 トンで同 32%、養殖ワカメが１万１千トンで同 51%、養殖ホタテガイが１千７百トンで同 27%にとどまっています。

このような中、当センターでは、環境変化に対応したサケ稚魚の飼育放流技術の開発、漁業・養殖業に大きく関わる海況変動に関する研究、アワビ等の増殖を図るための餌料海藻造成手法や経済効果の高いアワビ資源管理の研究など資源の回復や生産量の増大に向けた研究を実施しているほか、ホタテガイに比べて高水温に強いアサリの養殖技術の開発や、水揚量が増えているマイワシの原料特性、サワラの高鮮度流通試験など海洋環境の変化に対応した研究を行い、得られた成果はその都度現場に普及を図っています。

岩手県沖は、親潮、津軽暖流、黒潮続流が交錯するため、季節ごとに冷水性と暖水性の魚種が獲れていましたが、近年は黒潮続流の強勢と親潮の弱勢により、暖水系の魚種は獲れるものの、冷水性の魚種は獲れなくなる等漁業の様相は大きく変化しているほか、磯根資源や養殖水産物も海況の影響を受けています。

岩手県の漁業及び水産加工業がこれらの変化に的確に対応できるよう、当センターでは、これまで以上にスピード感を持って研究に取り組み、成果は迅速に普及していきます。

今後も現場主義を貫き、関係者の御意見・御要望を取り入れながら、本県水産業を担う漁業者、水産加工業者の発展を技術面から支援して参りますので、引き続き御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和５年 11 月 20 日

岩手県水産技術センター所長
神　康俊